

キミの勉強したい気持ちを応援します。

日本史(古代)

渡辺 晃宏 / 教授 Akhiro WATANABE
東京に生まれ、東京の大学で勉強したあと、奈文研で平城宮・京の発掘調査と木簡の整理・解読に31年間携わりました。その経験を生かし、奈良で日本古代史を学べる幸せを、学生のみならずにもじっくり味わってもらえるようにしたいと思っています。

日本史(中世)

海津 一郎 / 教授 Ichiro KAIZU
日本中世史は仇討が公認されているセルフコントロールの時代です。現代を生きぬく知恵が詰まっています。江戸っ子で和歌山大学に30年居た私とクロスオーバーしましょう。

日本史(中近世文化史)

河内 将芳 / 教授 Masayoshi KAWAUCHI
失われた過去との出会い、それはまた現代に生活することの意味を問い直すことにもなるでしょう。現在は京都など中世都市における社会のさまざまなすがたを追いかけるところに熱中しています。しかし、言うは易し、行は難し、苦労をつづけています。

日本史(近世)

木下 光生 / 教授 Mitsuo KINOSHITA
自分の「いま」を考えるために、「むかし」のことを一緒に考えていきましょう。「差別」だとか「貧困」だとか、世の「ややこしい」問題にあえて挑戦しています。大変ですが、やりがいがあります。

日本史(近代文化史)

村上 紀夫 / 教授 Norio MURAKAMI
学校で習う歴史にはほとんど登場しない、民間で活躍した宗教者や芸能者の勉強してきました。歴史を学ぶと、少しずつ地名や地形・町並みなどさまざまなものが、それまでと違って見えてくるようになりました。特に、奈良は魅力的なところです。奈良でいろいろな「驚き」「発見」を経験しませんか。

日本史(近代)

奥本 武裕 / 教授 Takehiro OKUMOTO
奈良県の地域史、被差別部落史、真宗史を研究しています。人間が作る様々な集団の間に生じる共同や排除の様相を明らかにすることから、今も残る社会的差別解消の糸口を見たいと考えています。史料を発掘し、読み解き、考察を進めることの楽しさや意義を実感する毎日です。

4年間の学びのプロセス

Table with 4 columns: 1年生, 2年生, 3年生, 4年生. Rows include 必修科目 (必経科目, 選択科目) and 選択科目 (1~4年生, 3~4年生).

※カリキュラムに関する詳細は下記QRコードにて

※2026年度のカリキュラムです。

Voice 奈良大学で夢をかなえ、第一線で活躍する卒業生 先輩の声を聞いてみよう!

東條 果穂さん 長野県飯綱町役場保健福祉課健康推進係 主事
私が奈良大学で学んだ史学科での4年間は、実物の史料にふれる機会を、学内外問わず多く設けていただいた印象が強いです。特に、奈良県の山添村や京都市内の社寺で古文書調査をしたことは、私にとって貴重な体験でした。

清山 遼太さん 山陰中央新報社編集局政経部 記者
「いかに分かりやすく伝えるか」。私が勤務する新聞社で基本となるこの力は、大学時代に大きく養われたと思います。私は史学科で近現代史について研究するゼミに所属していました。過去の新聞や書物、論文を読み込み、自分なりの研究をまとめて発表する機会を多くいただきました。そうした場面を通し、「数ある情報から何を取捨選択し、どのようにまとめ、いかに上手く伝えるか」を学ぶことができました。現在は新聞記者の1人として、文字で事実を伝える仕事をしています。取材の要点を整理し、文字にするのは簡単ではありませんが、大学時代に培った力で困難な仕事を何度も乗り越えてきました。先の読めない世の中ですが、多くのことにチャレンジして社会で役立つ力を付けてください!

私に奈良大学で学んだことは歴史学の知識だけでなく、さまざまなことに生かすことができると考えます。たとえば、古文書を読み解いていくなかで、当時の時代背景や人々の思いを考察することは、住民の方々の気持ちに深く寄り添う必要がある現在の仕事において非常に役立っています。今後も史学科で学んだことを、日々の業務で応用し、住民の方が安心して生活できる町づくりに貢献していきたいです。

渡邊 航一さん 徳島県吉野川市立西麻植小学校 教諭
私は史学科を卒業後、現在は徳島県吉野川市立西麻植小学校教諭として働いています。奈良大学では、大好きな歴史を様々な体験を通して学ぶことができました。ゼミでは、史料などから歴史を読み解いていくことが多く、毎回の講義が新たな発見ばかりでした。また、実際に学外に調査や研究に行くなど、古都奈良ならではの経験をすることができました。そして、大学在学中に、学校支援ボランティアに参加することで、教員になりたいという思いが強くなりました。そこで、「教職学習会」のことを知り、教員志望の学生と教育について深めていきました。これから、目の前の子どもたちとしっかりと向き合い、ともに成長できる教員でありたいと思います。

倉屋 久美さん 京菓匠鶴屋吉信
私は現在、鶴屋吉信で和菓子の販売を担当しています。商品の種類や用途はさまざまですが、なかでも京都の年中行事と風習にまつわるお菓子は、お客様の関心も高く、販売員としてその背景にある歴史や文化を知ることが欠かせません。また、季節の移り変わりや世の中の状況から、その時に求められているものを把握することも重要です。歴史を知り、現在を理解することでお客様の要望と暮らしに少しでも寄り添えるような接客を心がけています。在学中には、学内を飛び出して史料調査や祭り見学など多様な歴史学に触れる機会がありました。奈良大学の学びで得た経験と多角的な視点は私の強みになっています。

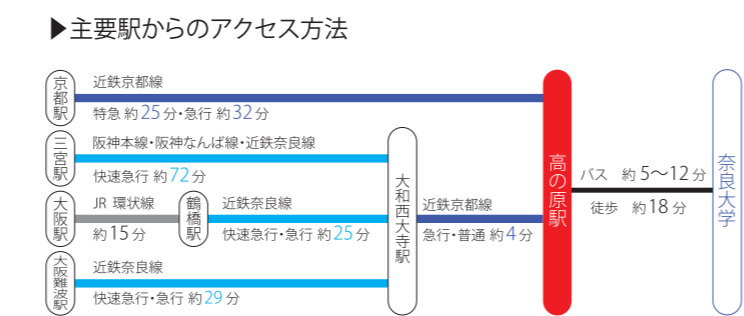
史学科の主な進路先

Table with 2 columns: 就職先, 進学先. Lists various employment and university options.

資格取得 さまざまな資格が取得できます。

- 教員免許状, 博物館学芸員, 司書, 学校図書館司書教諭, 学校司書

奈良大学へのアクセスは…



公式ホームページもご覧ください

学科ニュース、オープンキャンパス、入試情報など最新情報をお知らせします。



歴史研究で一番大事なものは史料です。史学科ではその史料にふれる時間を大切にしています。



木簡を手に
古代に思いをはせる

歴史の真実を見つめる



南太平洋の水爆実験と
日本の関係を
史料から検証しています



奈良から世界へ

史学科ではふだんから、古文書や木簡、それに木版本など、実物の史料にふれる研究を進めています。近年ではここにグローバルな視点加わりました。イスラーム・中央アジア史と太平洋・アメリカ研究も加え、日本からヨーロッパまでぐるっとひとまわり。小さな史料から大きな世界を展望する、そんな歴史学に身を投じてみませんか？

シルクロードを行き交った
人びとを知る



現場で史料解説！



史学科では山添村の
古文書調査を継続しています



中央アジアの
広がり想像する



強力無比な教員と学科構成

史学科の売りは、なんと言っても、多彩で豊富な教員陣です。関西で歴史学を学べる大学は数あれど、

- ① 日本史、東洋史、イスラーム世界史、西洋史、環太平洋世界史の教員がひとつの学科の中できちんと揃っている
- ② 日本史に、古代、中世、近世、近現代の、各時代の専門教員がいる
- ③ 考古学や美術史、地理学、国文学といった、歴史学と関連する学問分野が、独立学科としてきちんと揃っていて、その授業を受けられる

という3つの条件が整っているところが、奈良大学です。こんなぜいたくな環境で、大学生活の4年間、思いっきり、好きなだけ歴史研究に没頭してみませんか？

他学科では、こんなことも学べます

文化財学科 古墳研究の最新成果
中世・近世の城郭
日本の絵画・彫刻の歴史

地理学科 歴史地理学
近世の城下町と陣屋町
戦後の都市・農村の問題

国文学科 『万葉集』と『古事記』
江戸時代の草双紙・読本
明治・大正・昭和の文学と文化

奈良大学

日本史・東洋史・西洋史、
イスラーム世界史・環太平洋
世界史の教員がきちんと揃って
いて、考古・美術・地理、国文が
独立学科として揃っている大学



日本史の全時代の教員が揃っている大学



日本史、東洋史、西洋史の教員が揃っている大学



関西で、史学系のコースがある大学 ※国公立、関関同立は除く。



関西で、史学系のコースがある大学 ※国公立、関関同立は除く。



関西で、史学系のコースがある大学 ※国公立、関関同立は除く。

むかしの研究は、いまとこれからの自分のためにある！

歴史学は、**実学**ではありません。歴史に詳しくなっても、就職に役立つ資格がとれるわけではありませんし、会社の仕事でも、歴史の知識なんて、何の役にも立ちません。その意味で歴史学は、**無駄**なことを考え続ける学問だといえるでしょう。

ですが、その**無駄**なことを徹底的に考え抜いた学生こそ、最後には企業や公務員、教員への就職、あるいは大学院進学など、自分の未来を、自分の力で、しっかりと切り拓いてもいます。どうしてなのでしょう。

それは歴史学が、結局のところ**社会を考える**学問だからであり、それに没頭した学生もまた、いつの間にか、自分なりに**社会をみつめる力**を養っているからです。自分をとりまく社会を、広く、深く考え抜ける力があれば、どの世界、どの業種に行っても通用するのは当たり前です。ですから、**無駄**なことを一所懸命4年間考え続けた学生こそ、最後は**勝つ**のです。

無駄なことを考え抜く —それが未来への近道